

びわこ学園だより

発行責任者 理事長 山崎 正策
編集責任者 法人事務局 田處 浩吉
印刷 近江印刷株式会社

新年のご挨拶 (びわこ学園理事長 山崎正策) ……	1P
第42回実践研究発表会報告 ……	2~3P
二十歳おめでとうございます ……	4P
welcome!!フィリピンからびわこの仲間たち ……	5P
施設等Topics① ……	6P
施設等Topics② ……	7P
施設等Topics③ ……	8P
施設等Topics④ ……	9P
スタッフhistory③(看護職員編) ……	10P
スタッフhistory④ (勤続25年以上の職員編) ……	11P
ご協力ありがとうございます (R5年8月~R5年11月) ……	12P

新年のご挨拶

社会福祉法人びわこ学園理事長 山崎 正策



新年明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、令和6年の新春を健やかに迎えになられたこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年びわこ学園は創立60年を迎え、新たな門出を迎えることとなりましたが、我々を取り巻く重症児者の支援環境は大きな変化を見せてきています。

それは、施設を入所利用されている方々が重度重症化されている中、新たに入所利用される方が重度重症でしかも低年齢の方が増えてきたことです。いわゆる「超重症児者」と呼ばれる方々で、対応には様々な医療的ケアと重介護が必要な方々です。また、そういう重い障害を持っておられながらも、在宅でご家族と一緒に様々な支援を受けながら生活される方も増えてきました。都会では数年前から在宅生活される医療的ケアの必要な方々が急激に増えてきていましたが、滋賀県でも、在宅生活されておられる超重症児者数は大きく増えてきています。

急激に増えてきた超重症児者への対応を図っていくために、様々な対応策が考えられ、入所施設での受け入れ拡張、短期入所・レスパイト機能の拡大、在宅生活支援のための訪問看護、訪問介護、在宅支援診療所、幼稚園や小学校への通園や通学支援、一般病院小児病棟での超重症児を含む、在宅重症児の治療病棟作り等、現在超重症児者の在宅生活支援サービスは、大きく広がりを見せてきています。

そういう時代に差し掛かり、我々重症心身障害児者施設は、医療機能も福祉機能も持ち合わせてはいますが、今まで通りの事業だけでは先々が心配され、今後どのように事業を進めていくべきか等々を考えようとしてきましたが、大変難しい状況です。

地域、我々の場合は滋賀県ですが、地域の状況を意識しながら、また様々な事業所と連携しながら事業の展開を図っていくことが基本となりますが、なかなか思うようには進みません。加えて最近では、医師、看護師、生活支援員等の職員確保の難しさと相まって、事業の継続についても、不安材料が多く出てきています。

そういう状況の下で、今我々は滋賀県から、医療的ケア児者対応事業所開設促進事業及び重症心身障害児者・医療的ケア児支援センター事業を受託しました。各地域での短期入所事業所の開設と、各地域を対象とした重層的な相談支援体制を作り上げていこうと考えています。

各地域で課題解決に努力されている中、びわこ学園も協力させていただきながら、必要なときにはびわこ学園も利用してもらい、重い障害を持っておられる方々が入所支援も在宅生活支援も両方利用しながら暮らしていける支援の在り方を、時間をかけながらしっかりと各地域とびわこ学園で協議し作り出していく時が来たのではないかと考えています。

皆様方のさらなるご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



社会福祉法人
びわこ学園

法人事務局
びわこ学園医療福祉センター草津
びわこ学園医療福祉センター野洲
知的障害児者地域生活支援センター
びわこ学園障害者支援センター
びわこ学園長浜診療所

TEL 077-587-1144
TEL 077-566-0701
TEL 077-587-1144
TEL 077-527-0494
TEL 077-585-8040
TEL 0749-53-2771

〒520-2321 野洲市北桜978-2
〒525-0072 草津市笠山八丁目3-113
〒520-2321 野洲市北桜978-2
〒520-0802 大津市馬場二丁目13-50
〒524-0014 守山市石田町707
〒526-0845 長浜市小堀町122番1